

TAKE FREE

# 2M+ | vol. 08

北海道教育大学岩見沢校 卒業生へのインタビュー



+ 市役所職員・ピアノ講師

## Piano Duo Lilas

川辺美穂 & 杉原彩香

### Topics

大学の出来事  
仕事と演奏の両立について  
Piano Duo Lilas について  
これから音楽を学ぶ人へ



## ZAWA+について

2020年より、新たに始まったi-BOXのシリーズ企画「ZAWA+」。本展では岩見沢（ZAWA）から飛び立った、卒業生のその後と現在（+）をご紹介します。岩見沢校が現在の芸術・スポーツを学ぶ大学に形を変えてから10年以上が経過しました。これまでに岩見沢の地を巣立った卒業生たちは、社会経験を積みながら近年、活躍の幅を広げつつあります。教員、会社員、クリエイター…様々な進路に進んだ卒業生たちは、今一体何を考え、何を作っているのでしょうか？「ZAWA+」では、社会とかわりながら、研鑽し続ける卒業生の皆様をご紹介します。

vol.  
08

## ピアノデュオリラ Piano Duo Lilas

川辺美穂 & 杉原彩香

札幌市出身。北海道教育大学岩見沢校芸術課程音楽コース鍵盤楽器専攻卒業、同大学院修士課程修了。二宮英美歌氏に師事。ピアノデュオ結成から11年目の2023年からPiano Duo Lilasとして活動中。

大学在学中にピアノデュオを結成し、演奏会等に出演。卒業後、生涯学習センターいわなびによるロビーコンサートや動画配信コンサート、かでの27ロビーコンサートに出演。2023年4月には、岩見沢駅ストリートピアノのお披露目記念演奏会に出演。2024年3月道銀文化財団Art Ensemble#20北海道立近代美術館コンサートに出演。その他、地域のコンサート等に出演。クラシックやポップス、映画音楽等様々なジャンルを演奏し、幅広い年代から好評を得ている。



カワベさんってどんな人？

## HITOTONARI SPACE



＋市役所職員

かわべ みほ  
川辺 美穂

【鍵盤第6研究室（当時）】  
各学期ごとに実技試験があったので、主にピアノ演奏技術を学びました。特に3年次のコンチェルト課題は、ピアノソロとは違った学びがあり、実際にスーパースターで演奏家として共演した時には先生の演奏家としてのアドバイスがとても助けになりました。

### 研究室について

### 修士論文について

タイトル【ラヴェルのピアノ作品『鏡』におけるリストからの影響についてー『鏡』より第1曲「夜蛾」、第3曲「洋上の小舟」を中心にー】

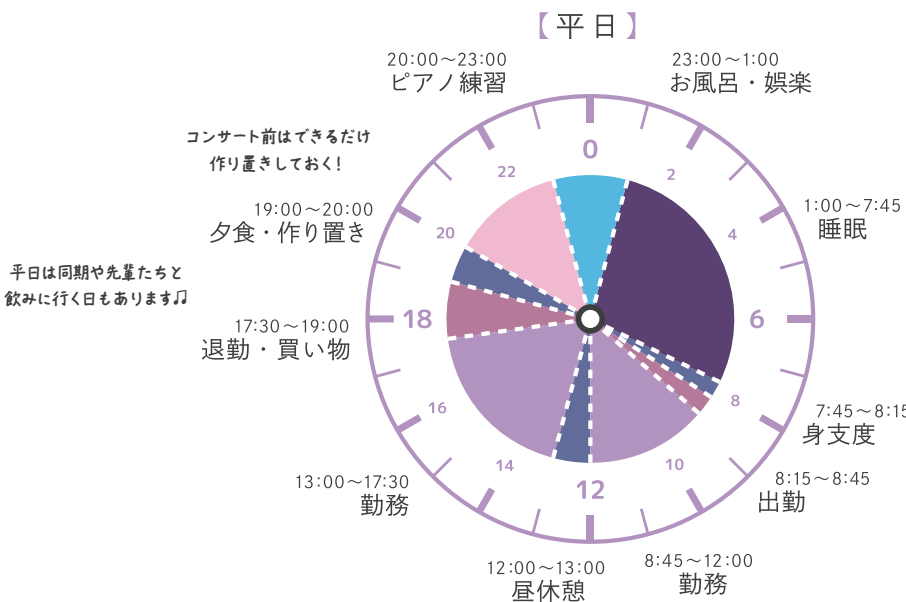
ラヴェルのピアノ作品『鏡』より「夜蛾」、「洋上の小舟」と、影響を考えられているリストのピアノ作品『超絶技巧練習曲』より「鬼火」、「巡礼の年報第3年」より「エステ荘の噴水」と比較分析し、本当にリストから直接的な影響を受けているかを検証。

札幌市出身。北海道札幌西高等学校卒業、北海道教育大学岩見沢校芸術課程音楽コース鍵盤楽器専攻卒業、同大学院修士課程修了。  
学内選抜ソロコンサート、卒業演奏会やスーパースター定期演奏会にてソリストを務める。PTNAピアノコンペティション北日本地区本選大会D級第2位、E級優秀賞、F級奨励賞。第24回JPTAピアノオーディションD部門全国大会出場。第13回リスト音楽院セミナー受講、選抜優秀受講生コンサートに出演、第16回リスト音楽院セミナー特別レッスンに選抜されアッティラ・メーネティ氏のレッスン受講。第11回ブルクハルト国際音楽コンクール第5位。第10回横浜国際音楽コンクール一般Aの部入選。第17回大阪国際音楽コンクールAge部門ファイナル入選。  
ロシア研修旅行やウィーン研修旅行、ドイツ・ハンブルク国際音楽春季講習会に参加し、各終了コンサートに出演。その他、Kittaraあ・ら・かるとやいわなびロビーコンサート（最多出演）、深川ピースコンサート、夕張の杜コンサート、夕張市音楽発表会、岩見沢市内の中学校や養護学校などで各種アンサンブルの演奏会に出演。これまで、山下聡、宮澤功一、二宮英美歌、各氏に師事。

### 近年の演奏会

|         |                      |                        |
|---------|----------------------|------------------------|
| 令和4年11月 | 岩見沢高等養護学校芸術鑑賞会       | 岩見沢高等養護学校              |
| 令和5年7月  | 深川ピースシアター            | 深川市生きがい文化センタークリスタルスクエア |
| 令和5年9月  | 第93回夕張の杜コンサート        | 札幌パークホテル               |
| 令和6年10月 | 第64回音楽発表会（スペシャルゲスト）  | ゆうばり文化スポーツセンター         |
| 令和6年12月 | いわなびロビーコンサート Vol.104 | 岩見沢市生涯学習センターいわなび       |

## Q.1 | カワベさんの一日



## Q.2 | 好きなモノ・コト

- ＋ 旅行
- ＋ 食べ歩き
- ＋ 岩見沢の焼き鳥

## Q.3 | カワベさんの3カジョウ

- ＋ 仕事もピアノも遊びも全力！
- ＋ やれるだけ諦めずにやってみる！
- ＋ サポートしてくれる人への感謝を忘れない

## Q.4 | 現在のお仕事



### 【岩見沢市役所 市民連携室 市民連携係】

誰もが自分らしく生きられるような男女共同参画社会の実現に向けた様々なイベントの企画・運営、性の多様性への理解促進とパートナーシップ宣誓制度に関する事業の推進、配偶者等からの暴力の防止についての被害者への助言・支援、困難な問題を抱えた女性への相談・支援などの相談業務を主にこなしています。

スギハラさんってどんな人？

## HITOTONARI SPACE



+ピアノ講師

スギハラ アヤカ  
杉原 彩香

【鍵盤第6研究室（当時）】  
実技試験の曲をメインにレッスンをしていたきました。毎年大きなホールでの演奏会があり、同じ研究室の先輩や後輩の演奏を聴き学べた事がとても良い機会でした。また、フランス音楽を曲の背景などを通してより深く学び、演奏技術を磨きました。

### 研究室について

### 修士論文について

タイトル【ピアノ独奏版《牧神の午後への前奏曲》についての一考察】

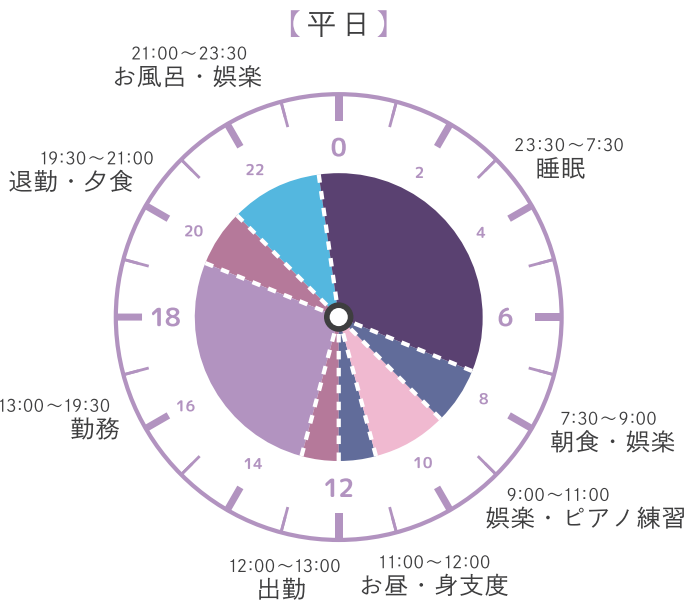
～版の比較を通しての音楽的研究～

クロード・ドビュッシーが1894年に発表した管弦楽作品《牧神の午後への前奏曲》におけるピアノ独奏用編曲版に着目し、原曲とピアノ独奏版の比較分析を行い、その違いを考察し、ピアニストの視点から新たな編曲の可能性を探究する。

### 近年の演奏会

|       |            |
|-------|------------|
| 平成30年 | 音楽教室にて講師演奏 |
| 令和2年  | 音楽教室にて講師演奏 |
| 令和7年  | 音楽教室にて講師演奏 |

## Q.1 | スギハラさんの一日



## Q.2 | 好きなモノ・コト

- + 韓国ドラマ
- + ネットショッピング
- + スイーツ

## Q.3 | スギハラさんの3カジョウ

- + 心に正直に
- + 日々研鑽
- + 感謝の気持ちを忘れない

## Q.4 | 現在のお仕事

### 【ピアノ講師】

未就学児から大人まで幅広い年齢の方にクラシックやポップスなどの曲のレッスンをしています。コンクールや発表会などのイベントに生徒を出したり、講師演奏を行うこともあります。





## 大学での出来事

―音楽を学ぶ環境が他にもある中で、北海道教育大学岩見沢校を選んだ理由を教えてください。

（川辺）私、フランスの印象派音楽が昔からすごく好きだったんです。特にドビュッシーやラヴェルの作品がとても好きで極めたいなと思った時に、フランス音楽を中心に研究されているいい先生はいかな？と探したら、なんとフランスにも留学されてご活躍されている二宮英美歌先生が北海道にいらっしゃって。二宮先生に習いたいと思って教育大を選びました。特に、オープンキャンパスに参加をして実際にレッスンをしていた時に、「二宮先生の元で学びたい！」という気持ちが強くなったのを今でも覚えています。（杉原）私は昔から色々な習い事

をしていました。小学校とか中学校に入るタイミングで習い事を辞めていく中、最後まで残ったのがたまたまピアノだったっていうのが正直なところですよ。でも、続けていくうちにだんだん「将来はピアノの先生になりたい！」という気持ちが芽生えていました。高校は札幌大谷高校の音楽科に進学して、音楽を専門に勉強し、その頃には音楽関係の大学に行こう！と決めていました。教育大に決めたのは、高校の一つ上の先輩に「二宮先生すごく良いよ」と教えてもらい、色々お話を聞いたからです。フランス音楽が好きだったこともあり、絶対に二宮先生に習いたい！と思っていました。

―大学時代はどんなスケジュールでお過ごしでしたか？

（川辺）基本的にはまず授業を受けて、空きコマの時には自分の練

習半分と、私はアンサンブルも好きだったので、管楽器や声楽の伴奏の合わせとかをやっていました。18時ぐらいから二宮先生にレッスンを見てもらって、20時ぐらいの電車に乗って帰るという割と音楽がみっちり詰まった学生生活でした（笑）。

―学業以外の活動はどれくらいされていましたか？

（川辺）私は大学ではピアノを専門的に学びたいなと思っていたので、1年に1回必ずコンクールに挑戦するという目標を立てていました。技術を学んで、もっとピアノが上手くなりたいと思っていましたね。一歩大学の外に出ると、それこそ世の中には音楽大学がいっぱいあるので、自分がどれくらいできるのかをコンクールで試していました。学校の試験とさらにコンクールとなると、沢山の

―両立が大変だったとのことですが、どのように練習時間などをやりくりされましたか？

曲を勉強できるのですが、両立はちょっと大変でした。

（川辺）そうですね。高校生の時までは、先生に教えてもらって学ぶというスタイルが普通でした。でも、大学に入ったら先生から「もうここまできたら皆さんは楽譜も読めるし、指も回るようになっていくから、楽譜を見て『考える時間』も大事だよ」というアドバイスを受けました。

すっかり楽曲分析※1をした上で演奏すると、より作品を理解して表現したい音楽に近づけることができます。時間が限られた中でも、帰りのJRの中で楽譜を見て、考える時間を作りながら練習することで、意外と乗り越えることができましたように思います。

※1. 楽曲の中のメロディーやハーモニーなどの要素や形式、作曲家の時代背景などを分析し、楽曲がどのように構成されているかを調べること。





卒業後も二宮先生との交流を続けています。



大学院卒業の記念写真



(川辺) 大学院時代ザルツブルグへの研修旅行の写真



(川辺) 先生とウィーンへ研修へ行った際の写真

「お二人は当時、大学院にも進学されていました。いつ頃に進学を決められたのでしょうか。」

(杉原) 私は4年生になってからです。4年じゃ足りないって強く思ったのを覚えています。4年生になると周囲は民間就職や教員採用試験を受けていましたが、私と川辺さんは2人とも共通して、自分の目指す音楽を表現するための演奏技術や理論などがわかりはじめた時期だったので、「もう少し時間をかけて学びを深めて、もっと良い演奏がしたい!」という気持ちで強かったです。二宮先生の元で学びたい、というのもあって、そのまま教育大の大学院に進学しました。

―指導教官の二宮先生との思い出はありますか？

(杉原) レッスンもすごく楽しかったですけど、ピアノ以外の

会話を結構していました。プライベートのことか、韓国ドラマのことか話したりして、そういったちょっとした時間が楽しかったなあって思います。

大学院は卒業するために論文執筆があるんですが、先生が根気強く見直してくれて、添削に時間をかけて指導してくださいました。論文提出の日は先生が体調を崩されて、ご自宅のベッドの上からお電話をいただきました。本当に熱心に、良くしてくださったなと思います。

(川辺) 私は大学院2年次に、教員になるか、演奏家としてやっていくか、迷っていた時、先生から「ただ演奏家になるというよりは、自分にしかできない形を探してみるのが、一つの演奏家の形として面白いんじゃない?」というお言葉を頂きました。それで、大学・大学院で6年間お世話になった岩

見沢市に残ってみようかな、とありました。さらに「地域の人に愛されるピアニストになってみるのもいいんじゃない?」という先生の何気ない一言があって、今の私があります。

### 仕事と演奏の両立について

―川辺さんはなんと岩見沢市役所に入職されました。岩見沢市内の仕事は色々あったと思いますが、なぜお役所だったのでしょうか?

(川辺) ピアノ人口はとても多いので、大きな国際コンクールなどに出場経験があるような知名度がある方じゃないと演奏会で沢山の人の集めるのは難しいと感じていました。市役所は3〜4年です。んな部署を回るので、知識もつきし、繋がりもできるし、もしかしたら音楽好きな人との繋がりもで

きるかもしれない。そうしたら、岩見沢の人々にいい音楽をもっと紹介できるのでは?と思って、市役所を選びました。

実際に、市役所に在籍することで、地元に残って自分の演奏活動も出来て、更に税務課・市民連携室<sup>※2</sup>・教育委員会などに配属され、自分の知らない領域の仕事に触れられたのは大きな財産です。教育委員会では、自分も教員免許を持ち、教育現場を知っているからこそ学校の先生を支える立場に回ることもできました。

―音楽の勉強が市役所のお仕事でも何か役に立ったな、ということはありませんか?

(川辺) 音楽をやる人の中にいると、忍耐強く1つの曲や、1つの物事を一生懸命あきらめずに最後までやる、というのは当たり前のことだと思っていました。外に

※2. 市民活動に関する相談の受付や情報発信などの活動支援を行う部署。  
その中で、川辺さんは男女共同参画社会の実現に向けた事業の推進事業に携わっていました。



講師演奏の様子



生徒さんのミニコンサートにて



ドイツでの春期講習にて



税務課時代に岩見沢市の姉妹都市ボカテロ市への派遣事業で団長を務めた際の写真

きだから、という気持ち。音楽って辛い時多くて、楽しいのは本番の時だけ、ってよくあることなんです。本番で自分の表現したかった音楽を奏でられたり、お客さんから「楽しかった」「また聞きたい」という言葉を頂くと、モチベーションはぐんと上がりますね。

―杉原さんは現在、音楽教室でピアノの講師をされていると伺いました。

（杉原）そうですね。大学で学んだことは仕事に直結しています。授業の「ピアノ指導法」※3で培った経験は、今実際に生徒さんに接する際にも活かされていることが多いです。例えば、教材研究※4をすることは年齢や性格が一人一人違う生徒さんに指導する上でとても重要なことです。実際のレッスンでも、日々生徒さんの

ニーズや目標に合わせた指導法を考えて行なっていて、大学時代に勉強したことがベースとなっていて、にすごく活かしていると感じています。

―日々の練習について教えてください。

（杉原）私はピアノ講師の仕事をしているので、ちょっとした空き時間にコンサートや伴奏の練習をちょこちょこ行っています。30分だったり、1時間だったりまちまちですが。日によっては練習できない日もありますし、逆に何時間も出来ちゃった！みたいな日もあります。その日のレッスンの入り方で、練習時間や方法は大きく変わりますね。

（川辺）私は…たとえば税務課時代は、時期によっては夜中まで仕事していることも多々あったので、そういう時期はやっぱり弾け

※ 3. 指導案を作り、それに沿って実際に地域の人にレッスンを行う授業。（当時）

※ 4. 授業で用いる教材について深く学びながら、効果的な活用や指導方法を模索する活動のこと。

出た時に「あれ、自分って意外と精神的に強いんだな」と気づきました。

あとは、一人でステージに立つ、という経験をたくさん積んでいるので、人前に出ることは「ピアノを弾くよりも緊張しないんだな」というのはよく感じます（笑）。意外とそういう舞台での経験とか、演奏会の運営をする経験は、「段取りを組む」仕事に繋がってきます。音楽で培ったものが役に立たないということは決まてないです。いろんなものに繋がっていて、それを応用できるかどうか、社会に出た時に必要になってくるかな、と思います。

のですが、自分で稼いで、自分のお金で勉強し続けることが大事かな、と思っています。たとえば、社会人3年目の時には、有給休暇を使用してドイツのハンブルグで行われた春期講習会に一週間ほど行って、様々な国の大学の先生のレッスンを受れたり、他の大学の人もお友達になったりしながら勉強しました。社会人になると、学生時代よりも圧倒的に練習時間が減ってしまうのですが、学んだことを実践に生かすならばコンクールにも挑戦しよう！と思って、翌年には大阪国際音楽コンクールや横浜国際音楽コンクール（当時）にも出演しました。

―コンクールに海外での勉強…なおかつお仕事も頑張るという、そのモチベーションはどうやって保っているのでしょうか…!?

（川辺）そうですね…やっぱり好





道銀文化財団 Art Ensemble#20 北海道立近代美術館コンサート「歌空に響くピアノデュオ～きらめく音の贈り物～」にて演奏した様子  
(2024年3月)



アの始まりです。学生時代は自主企画コンサートでちょっと一緒にやるくらいでしたが、本格的にPiano Duo Liasとして活動を始めたのは大学院修了後です。2人で「やっぱり音楽つづけたいね」となったときに、いわなびのロビーコンサートなどに出演しながら精力的に始めたような形になります。

「Piano Duo Lias」のユニット名はどこから？」

(杉原) 学生時代で6年、社会人になって10年、計16年二人で活動をしているのですが、活動を始め10年たった頃に、そろそろ名前を付けて活動したいね、と相談して名付けました。「Lias (リラ)」はフランス語で、ライラックを意味します。ライラックは2人の出身地札幌市の花でもあります、その花言葉は、「友情」や「恋の

芽生え」。ここまで音楽も友情も続いているのはすごいね、これからも皆さんに愛してもらえようなデュオ名にしたいね、ということでフランス語の中から選びました。

「演奏会の運営はやはりご自身でお仕事の合間に行われているのでしょうか？」

(川辺) そうですね。金銭的にはやはり自持ちでやっています。宣伝に関してはSNSの使用は勿論ですが、それぞれの職業が強みになっている部分もありますね。杉原さんの場合はピアノ教室の生徒さんだったり、音楽に関係するお客様に働きかけができますし、私の場合は市役所関係の方にお声がけをします。二人とも違う分野で仕事をしているからこそ、集客面ではいろんなお客様が来てくれる、というメリットがありますね。最近は依頼を受けて、こうい



※ 5. 岩見沢市生涯学習センター「いわなび」  
平成25年4月にオープンした「生涯学習活動を総合的支援する拠点施設」。親子学習室、料理講習室、音楽室、アリーナ、武道場などを備えている。



いわなびロビーコンサート出演時の様子

ませんでした。3〜4ヶ月も弾けなくなる時期が続いたり、というのは正直ありましたね。でも、弾ける時にとりあえずできるだけ練習すること、楽譜を見て考える時間を30分でも作ると、意外と学生時代には見えてこなかった楽譜の見方とか、こんな風に弾いたらすぐに覚えられるのかな、というのが見つけられて練習になっています。時間がなくても楽譜を見ても、弾けない時があったとしても落ち込まずに、出来る時にちょっとずつ継続してやる、というのが社会人になっても続けられる大事なポイントかな、と思います。

#### Piano Duo Liasについて

(川辺) そうですね。私が市役所に入った1年目に、生涯学習センター「いわなび」※5ができました。そこでロビーコンサートをしてみたいか、とお声がけ頂き、毎月いろんなお友達を連れて一緒にコンサートをしていました。海外に行って勉強しつつ、コンクールに出て、それを地域の人に還元するっていうのは、自分にとっても楽しいし、お客さんにも喜んでもらえる、演奏家の一つの形かな、と思います。

「お二人が組まれたきっかけを教えてください。」

(杉原) 大学2年生の時に行った新入生ウェルカムコンサートの時に、二人とも同じ二宮門下生でフランス音楽好きだったので、「ピアノ連弾用に編曲されたラヴェル作曲スペイン狂詩曲『祭り』」を弾いてみたいね、となったのが





な環境だと思います。それ以外にも、大学の仲間とたくさん遊んだり、興味のあるイベントや集まりに参加したりすることも、音楽とは関係なくても自分自身の経験や成長に繋がると思います。時間があるからこそできることを学生のうちにたくさんしてください！

（川辺）今はショパン国際ピアノコンクールやエリザベート王妃国際音楽コンクールなど大きな国際コンクールの様子を、わざわざ現地に行かなくても、Youtubeなどで見ることが出来ます。留学して、その土地に住んで作曲家の空気に触れるっていうのも大事だと思うんですけど、現代は意外と身近なところに教材がいっぱいあります。大学の図書館では、いろんなCDを無料で聞けます。観て学ぶのはYoutubeで、耳で音色を学ぶのはCDで。学生のころにはあまり気付かなかったんです。

けど、学校ってお金をかけた教材の宝庫なので、学べるものは遠慮せずにどんどん使いましょー！卒業してから「またあのCD聞きたいな」と思ったらお金がかかるので、今使える色んな教材を使って、どんどん学んでみてください！

―最後にメッセージをお願いします。

（川辺）私と杉原さんは、一緒に演奏したときに、ホールで聞き合いつつ、自分で聞こえる音と席で聞こえる音が違うと、お互いに意見を言い合える関係でした。ここがどうだよ、ああだよ、言い合える仲間がいれば、自分のいいところ・悪いところ、人に言わないとわからないところを知ることが出来ます。

すると、一人でコンサートやコンクールに行ったときに「前あ



岩見沢市観光協会より依頼を受けストリートピアノ設置記念演奏を行った様子（2023年4月 JR 岩見沢駅にて）

ところで演奏してくれませんか？と、「お呼ばれ」することも多くなってきました。

―プログラムなど企画内容もお二人で作られているのでしょうか。

（杉原）司会進行や流れを考えた、曲の解説を書いたり、プログラムの制作をしたり…と自分たちでやる場合、限られた時間の中でやっていくのはとても大変です。ロビコンのようにチラシ作成や広報活動、当日の司会進行など裏で支えてくれる運営スタッフがいる体制は、ピアノ演奏に集中できるのでとてもありがたいです。

（川辺）ある程度のご要望や客層をお伺いして、お客様に楽しんでもらえそうなプログラムを練るというのは毎回とても時間がかかります。例えばコンサートのテーマが「フランス」ならフランスの作曲家を中心に選んだり、逆に色々

な作曲家の作品を組み合わせる時はプログラム全体のバランスを意識して考えます。ピアノは一人で弾くことが圧倒的に多いのですが、Piano Duo Liasのコンサートでは、連弾…二人で弾く意味や楽しさ、魅力が分かるような曲を必ず入れるようにしています。

これから音楽を学ぶ人へ

―学生のうちにやっておいたほうが良いことは何だと思いますか？

（杉原）学生生活という限られた時間の中で、やってみたいと思うことは迷わずにやってみると思います。音楽でいえば技術をとことん磨くことだったり、感性を身につけるとかでも良いと思います。同じ専門分野で学ぶ仲間や先生方が周りにたくさんいることは、お互いを高めあうのには最高





## ロゴについて

卒業したあとどんな仕事をしていても、生活をしていても、大学で学んだことや、大学の仲間たちと過ごした時間は生かされている。どんな経験も、この先の自分につながっていく、という意味を込めて、「ZAWA+」の文字を一筆書きのようにつなげました。また“人生山あり谷あり”というイメージに合わせ、丸みを帯びたデザインにしました。

|        |                                                                                        |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 発行日    | 2025 年 10 月                                                                            |
| 企画     | 北海道教育大学岩見沢校 BOX [i-BOX]<br>岩見沢市有明町南 1 番地 1 JR 岩見沢複合駅舎<br>有明交流プラザ 2 階<br>煤田真実／立花優果／尾崎芳子 |
| インタビュー | 神田恋春／原橋もも（鍵盤第 1 研究室）                                                                   |
| 写真提供   | 一般社団法人 岩見沢市観光協会                                                                        |



いう風に言われてたから、きっと席ではこういう風に聞こえてるので、じゃあこーやって弾こー」：と、改善にも繋がっていきます。学生時代一緒に勉強した仲間からの言葉は、長年お互いの音楽を聞き続けているからこそとても信頼でき、大切です。音楽を通して素敵な友人を作っていくことや、違う世界にも輪を広げていくことは、自分の人生がとても豊かになっていくと思うので、ぜひ一杯学びながら学生生活を楽しんでください！

（杉原）学生生活の中で無駄なこととは何一つないと思います。音楽や学びと関係ないと思っていたことでも、後から意外とあの経験って今に繋がっているな、と社会に出てから感じたりすることがあります。学生のうちにやってみたいことや興味のあることなど、いろんなことに挑戦して楽しんでもら

えればなっと思っています。音楽の道に進んでも、進まなかったとしても大学時代に過ごした時間や経験は人生を輝かせてくれるものだと思います。それに私が川辺さんと出会ったように、卒業してからもお互いに切磋琢磨しあえる一生の友達と出会えるかもしれません！ぜひ学生生活を思いっきり楽しみながら、たくさんの事を学んでほしいなと思います。



